

調布・生活者
ネットワーク市議会議員
木下安子

◆調布・生活者ネットワーク
〒182-0022 国領町 8-1-13 TEL: 042(487)3087
HP: <http://chofu.seikatsusha.net/>

このたびの台風で被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
市や避難所の対応などでお気づきのことがありましたら、ご意見をお寄せください。

重度の障害をもつ子どもも受け入れる 学童クラブが調布でスタート!

👉 どんな学童クラブ?

2020年4月開設予定の(仮称)富士見町学童クラブは、重度の障害をもつ子どもなど、従来の学童クラブでは受け入れが難しかった子どもも受け入れる全国でも数少ない学童クラブです。障害を超えた子どもたちの交流の場は障害による差別がない社会作りの基礎となるでしょうし、障がい児のケアを担う保護者(ケアラー)のその人らしい人生の保障につながる事業としても期待ができます。

👉 市の共生社会へのビジョンは?

H18年に国連で障害者権利条約が採択され、H26年に日本が批准したことで、障害の有無にかかわらず人々が対等な関係の中でお互いを尊重し合う社会の実現を目指す取り組みが国内でも進められています。

調布市も、障がい者が暮らしの中で経験するさまざまな「障害」は社会がもたらすものだという考え方にもとづいて、障がい者に寄り添う社会を作っていく必要性を認識しているという、力強い答弁がありました。また、障害があってもなくても、すべての市民が社会の中で役割を持っているという認識も示されました。

👉 運営面できめ細かな取組みを!

①この学童クラブでは、1階の部屋では障害の有無にかかわらず子どもたちが一緒に過ごします。子どもたちが自主的な活動を楽しむ放課後だからこそ障害を超えた交流が期待できますが、子どもの交流をサポートする職員には臨床心理士や作業療法士といった専門家のアドバイスが必要であると考えます。社会福祉事業団と協議していくという答弁でした。



写真:市議会HPより



第三回 定例会 一般質問

②トラブルも含め、障害の有無を超えた交流の重要性を保護者が理解することも重要なポイントです。市にもその認識はあり、丁寧に説明をししていくとの答弁がありました。

👉 保護者への大きな支援に!

保護者にも自分の時間を過ごしたり、社会参加したりする権利が保障されるべきです。現在、市内で障害をもつ子どものケアの主な担い手は、親が98.4%、そのうち女性が82.1%と、母親が圧倒的に多いことが分かっています。フルタイムで働く障がい児の母親は5%にしか満たないというデータもある一方、保護者からは経済的支援や就労支援を求める声が上がっています。同学童クラブが開設されることで、負担の大きい子育てを担う障がい児の保護者もフルタイムで働きやすくなります。ケアから一時的に解放されるだけでなく、経済的安定を得ることも期待できます。

👉 送迎サービスは必須!

障がい児枠の子どもたちはそれぞれの学区を超えて利用することになるため、送迎サービスが不可欠です。現在、課題をクリアできるよう調整中とのことでした。

👉 居住地域での交流促進を!

この事業は、調布の地域共生社会づくりを大きく前進させる鍵を握っていると考えます。ゆくゆくは、障害をもつ子どもたちが住んでいる地域の中で放課後に友だちと交流できるように、さらに取組みが発展することを強く願います。

平成30年度決算に反対

調布駅前広場は市民の使いやすさを第一に

調布駅前広場の整備工事は、国からの補助金を受け、街路事業として進めています。駅前広場が正式に市の道路に認定されると、公園は設置できませんし、市民がイベントなどに利用する際には、一般的な道路の使用と同じように警察の許可が必要になります。

ただの交通結節点で終わらないように、これまでの使いやすさを担保するようにとの市民と議会からの強い要望もあり、市は道路認定を工事完了の2025年頃まで先延ばしにして、当分は従来どおりの手続きで利用できるよう便宜を図ってきました。

しかし昨年3月、工事期間中も道路区域として扱うようと国から通知があり、市は予定より7年ほど早い昨年9月、駅前広場を道路認定せざるを得なくなりました。

その結果、市民が利用する際の申請窓口は道路管理課と警察の2本立てになり、かつ道路使用料も2100円かかりますが、市民には丁寧な説明がされないまま1年間運用されてきました。警察での審査を簡略化するためにガイドラインも作成されていますが、議会への周知も徹底されていません。

日々駅前広場を使うのは国でも警察でもなく、市民です。予算の時と同様、市民への情報公開、丁寧な説明、プロセスの透明化という点で駅前広場整備事業の進め方になお課題があると判断し、決算に反対しました。

補正予算・条例改正にも反対

安易なマイナンバーカードの利用促進に反対

今回の補正予算と条例改正には、いずれにもマイナンバーカードの利用を促進する国の方針を受けたものが含まれていました。

デジタル化された個人情報の利用が自治体だけでなく民間でも可能になり、利便性向上が謳われていますが、プライバシーの侵害やなりすまし犯罪の危険性に対する市民の不安は払しょくされず、調布市民のカード取得率は15%にとどまっています。

補正予算では、今後対応の機械が撤去されることになっている印鑑登録カードの利用者に対して、マイナンバーカードの取得を勧める通知の経費が含まれていました。

印鑑条例改正は、住民基本台帳法が改正されたことにより、カードを取得した人が旧姓のまま印鑑登録ができるようになる制度改正を受けたもので、政府は女性活躍推進、出生率向上をその目的に掲げています。しかし、社会で活躍したいと願う女性に本当に必要なのは、結婚後も自らの姓を名乗り続けられる選択的夫婦別姓制度であり、戸籍法の見直しです。

マイナンバーカードの利用にはシステム導入やセキュリティ強化に莫大な予算がかかります。その上罰則規定もあることは、自治体にとっても民間にとっても大きな負担です。拙速なマイナンバーカードの利用促進に反対の立場から、補正予算および条例改正にも反対しました。

意見書および陳情書

天皇陛下御即位に関する賀詞決議

<賛成多数で可決>

お祝いの気持ちの表明というものは個人的なものであり、内心の自由にかかわるものです。また、天皇制は市民の間でもさまざま意見が分かれるデリケートな問題です。市民の思いを代弁する議会が、このような主観的な思想信条にかかわることまで市民を代表して意思表示することに大きな違和感を感じ、反対しました。



戦前から在住する「在日」コリアンとその子孫の 地方参政権を認める法的措置を求める陳情

<反対多数で不採択>

在日コリアンの方たちは、納税の義務を課せられながら、自分の生活圏の政策に対する賛否を示す権利さえありません。誰にとっても暮らしやすい街を実現するには、多様な声がきちんと政治の場に届くシステムが必要と考え、採択を求めました。



環境講座「さよなら『使い捨て』生活」に参加して

調布市が主催する環境講座に参加しました。2週間ごとに4回の講座で、私たちの行動が生活環境に与える影響を考えさせられました。第一回は上下水道のしくみを学ぶ見学ツアーで、東京都水の科学館と下水処理を行う有明水再生センターの見学(右写真)。夏休みで子ども連れの参加が多く、節水の大切さ、下水を浄化する微生物の働きなどを学びました。2回目以降は、環境省登録環境カウンセラーの中井八千代さんのリードで学習と話し合いを進めました。

2回目は海を汚染しているプラスチックごみの学習。世界では年間800万トンものプラスチックゴミが川から海に流れ出て海を汚しています。中井さんは日本各地の大学を回って若者にレジ袋やペットボトルなどを減らす講演をしています。(写真左下)



調布市のごみに関する情報は
ごみアプリでも



3回目は食品ロス問題。調布市内で食べきれない食品とそれを必要とする人をつなぐフードバンク活動の報告を聞きました。食料自給率37%の日本は大量に輸入した食糧の半分を廃棄しています。最後は、市のごみ対策課からごみの分別について詳しく聞き、質問や意見を交わしました。ゴミ問題について各自の考えや市や国などがなすべきことを出し合いました。

一人一人が意識を変え、行動を変えることで未来を変えなければと強く感じる講座でした。(A.Y.)



活動報告

- 7/20 生き物環境調査
- 7/22 若葉の森視察
ジェンダー問題について学習会
飛行場等問題対策特別委員会
- 7/23 社会を明るくする運動 中学生意見発表会
- 7/27 バリアフリー推進協議会傍聴
- 7/29 DVと性暴力について学習会
- 7/31 教育委員会第5回臨時会(教科書採択)
- 8/1 横須賀市sukasuka kids視察
- 8/3 講演会「引きこもり状態でお悩みの方へ」
講演会「発達障害の特性との向き合い方」
- 8/15 慰霊祭@椎の実子供の家
- 8/24 おしゃべりカフェ(議会報告会)
- 8/30 「調布の景観 これまでとこれから」
- 9/3 第三回定例会本会議(開会)
- 9/6 一般質問
SDGsワークショップ
- 9/8 フードバンクについて講演会
- 9/10-13 建設委員会審査
- 9/15 Jazz Artせんがろ視察
- 9/16 敬老会
- 9/20 第三回定例会本会議(閉会)
- 9/24 調布駅前広場市民検討会傍聴
- 9/26 おしゃべりサロン@ネット事務所
- 10/1 講座「さよなら『使い捨て生活』」
生活者ネットワークエリア会議
- 10/2 福祉大会
- 10/4 第三中学校50周年記念式典
- 10/7-9 行政視察
- 10/11 第五中学校60周年記念式典

横須賀市の民間インクルーシブ学童、sukasuka kidsの五本木さんと。



Jazz Artせんがろ総合プロデューサーの巻上公一さんと。ジャズの最大の要素である即興演奏を生かしたユニークな演奏は、公園に集まる子どもたちにも大人気。仙川の街から新しいアートが発信されています。



話題のSDGsのカードゲーム。異なるバクトルが共通の目標に向かうということがどういうことなのか体感できます。



調布駅前広場市民検討会に設置された模型。市内在住の大学院生の作品です。市民検討会は10/23、11/22、12月半ばと続きます。ぜひ傍聴へ!

詳しい活動報告は
ブログでも→→→



この人・ この一冊

市内在住の西尾氏からお借りした一冊。
姉上と同期で、同じ勤労作業中に被爆死した少女の日記です。
西尾氏には姉上の最期を詳細に記した文章を寄せていただきました。



『広島第一県女一年六組
森脇瑤子の日記』
細井浩史・亀井博編
(平和文化刊)

広島原爆の日

西尾邦彦

昭和20年8月、私は広島市西郊外の廿日市国民小学校3年生。4歳年上の姉は広島市内の第一県立女学校一年生で、市内の真ん中で家屋の強制取壊しに動員されていた。

8月6日朝8時15分、夏休み中なぜか登校していたわが小学校の教室は一瞬雷光のように強い光に包まれた。数十秒後、爆風が教室を襲い、窓ガラスが破れた。あわてて校庭に出てみると、東方の広島市内上空に大きなキノコ雲がわき上がり、次第に大きくなっていった。

何事かと騒いでいるうちに、お昼前、自宅の前に黒塗りの乗用車が停まり、夏だというのにオーバーを着せられた姉が帰ってきた。両親がオーバーを取ってみると姉は真裸で、しかも傷一つ見当たらない。意識も極めて鮮明で、両親は「助かったのか」と安心したようだが、そのうち脇の下、パンツのゴムの下に真皮が見つかるに及んで全身火傷だとわかった。ただ意識は鮮明で「あの医院は焼けたよ」など、両親との対話はほぼ完全だったようだ。しかし、全身火傷では助かるすべもなく、午後3時ごろ家族に見守られて息を引き取った。

午後になると、裸に近い多くの被災者が我が町を通過して西方へと流れて行ったが、我々の小学校は当然避難所となり、そこで命を落とした人は数えきれない。

爆心地の真下で被災した姉が我が家まで辿り着けたのは、幸運にも途中で知り合いの車に拾われた故であった。行方不明の親族を探しに市内をさまよって放射能被災者となった人を私は大勢知っている。

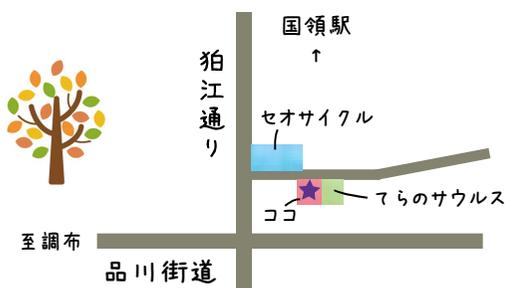
8月15日に終戦語すぐに米国は ABCC という医療施設を市内に造ったが、治療は一切せず、ただ被爆者のデータ集めに専心したという。まったく人間のやることとは思えない大量虐殺にいまだに怒りは消えない。これは完全に人体実験以外の何ものでもない。

☆おしゃべりサロンはじめました☆

毎月第4木曜日 10～12時
(議会の日程などにより変更もあり)

10月は24日(木)です。

国領の事務所でお待ちしています。
おしゃべりしたいテーマだけお持ちください。
何となく立ち寄ってみて!
というのももちろんOKです。



インフォメーション

- 市議会主催「議会報告会」
11月16日(土) 14時～
場所: たづくり 12F 大会議場
- おしゃべりカフェ
(第三回定例会の報告会も兼ねます)
11月20日(水) 10～12時
場所: 市民プラザあくろす 3F 研修室1
- 第4回定例会は11月29日(金)から
- 調布・生活者ネットワークのメンバーになりませんか?

メンバーの素朴な声をもとに研究、調査を立ち上げ、代理人(ネット議員)を通して政策提案をしたり一般質問に繋がったりします。とても楽しいですよ!